

2027年3月期 第1四半期決算説明会

2026年7月29日
株式会社エンプラス
(東証プライム 6961)

目次

決算概況

- 決算のポイント
- 2027年3月期 第1四半期 決算説明
- 2027年3月期 業績見通し

参考資料

- 事業戦略
- 中期経営計画 -2nd roll-

決算概況

決算のポイント

2027年3月期 第1四半期 損益実績

- 前年同期比で**大幅増収増益**

Semiconductor事業

過去最高

- 1Qはサーバー用途の売上が**大幅に増加**(特にAIサーバー向けは、**AIエージェントの普及**を背景にGPUおよびASIC関連の成長が加速したことに加え、**新たにCPU関連の需要が増加**)

Life Science事業

- 一部量産品の生産終了および顧客の在庫調整が継続し、減収(既存製品は堅調)

Digital Communication事業

- レンズコネクタ関連の新規製品の立ち上げ遅延(2027/3期 2Q以降に立ち上げの見通し)

Energy Saving Solution事業

増収増益

- 自動車用部品は、当社が注力する**低騒音・高効率ギヤソリューションビジネスの拡販**により好調

2027年3月期 第1四半期損益実績(連結)

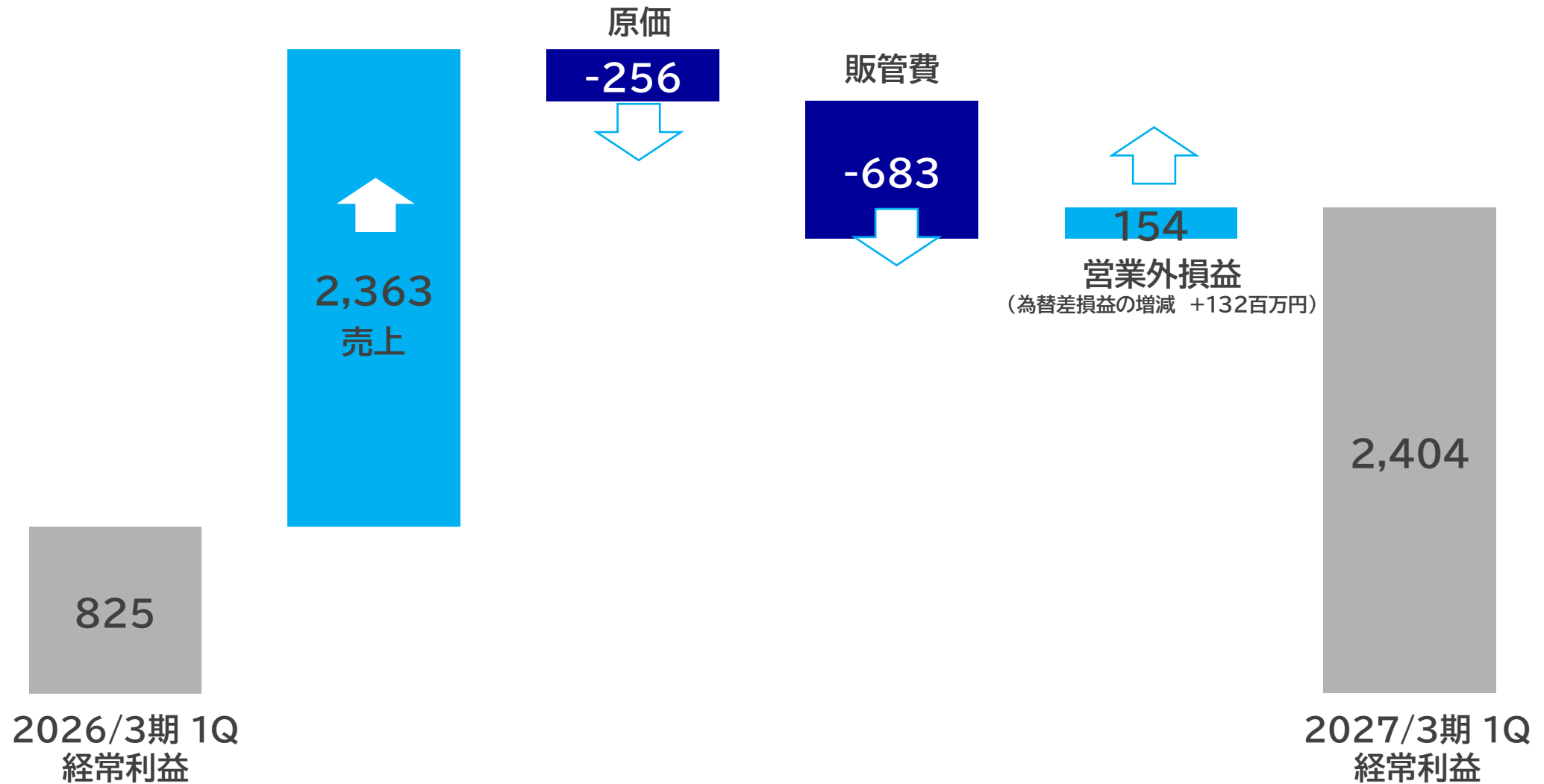
(単位: 百万円)

	2026/3期 1Q実績	2027/3期 1Q実績	増減	(参考) 上期計画
売上高	8,999	12,572	+39.7%	24,300
売上原価率	55.7%	51.5%	-4.2pt	53.0%
営業利益	905	2,329	+157.2%	3,900
営業利益率	10.1%	18.5%	+8.4pt	16.0%
経常利益	825	2,404	+191.2%	3,950
親会社株主に帰属する 四半期純利益	362	1,782	+391.9%	3,000
1株当り四半期純利益	41.03円	197.30円	+156.27円	332.16円
期中平均レート(US\$)	145.17円	160.51円	+15.34円	(計画レート) 150.00円

為替感応度(US\$):売上高 約200百万円/年、営業利益 約150百万円/年

経常利益の増減分析<前1Q比>

(単位: 百万円)



2027年3月期 第1四半期セグメント別実績(連結)

(単位: 百万円)

		2026/3期	2027/3期	
		1Q実績	1Q実績	増減
Semiconductor	売上高	4,888	7,878	+61.2%
	売上原価率	48.5%	44.8%	-3.7pt
	営業利益	866	2,012	+132.2%
Life Science	売上高	516	276	-46.4%
	売上原価率	61.6%	63.3%	+1.7pt
	営業利益	-10	7	-
Digital Communication	売上高	420	457	+8.8%
	売上原価率	52.7%	51.8%	-0.9pt
	営業利益	-43	-121	-
Energy Saving Solution	売上高	3,173	3,959	+24.8%
	売上原価率	66.1%	63.9%	-2.2pt
	営業利益	92	430	+366.4%

連結四半期損益実績推移

(単位: 百万円)

	2026/3期				2027/3期
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
売上高	8,999	11,901	11,473	10,166	12,572
売上原価率	55.7%	55.2%	52.2%	55.2%	51.5%
営業利益	905	2,145	2,149	963	2,329
営業利益率	10.1%	18.0%	18.7%	9.5%	18.5%
経常利益	825	2,255	2,297	1,104	2,404
親会社株主に帰属する 四半期純利益	362	1,884	1,629	1,357	1,782
1株当り四半期純利益	41.03円	212.93円	182.78円	150.72円	197.30円

参考:セグメント別四半期損益実績推移(連結)

(単位: 百万円)

		2026/3期				2027/3期
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
Semiconductor	売上高	4,888	5,797	7,166	5,751	7,878
	売上原価率	48.5%	45.7%	45.0%	48.4%	44.8%
	営業利益	866	1,412	1,880	815	2,012
Life Science	売上高	516	2,104	262	200	276
	売上原価率	61.6%	62.9%	72.3%	63.5%	63.3%
	営業利益	-10	546	-51	-52	7
Digital Communication	売上高	420	365	383	481	457
	売上原価率	52.7%	58.6%	42.4%	52.3%	51.8%
	営業利益	-43	-107	-10	-122	-121
Energy Saving Solution	売上高	3,173	3,634	3,661	3,731	3,959
	売上原価率	66.1%	65.6%	66.1%	65.6%	63.9%
	営業利益	92	294	331	323	430

決算総括

➤ 販売管理費

(単位: 百万円)

2026/3期 1Q	2027/3期 1Q	差 異
3,084	3,768	+684

- 労務費 +194百万円
- コンピューター費 +74百万円
- 研究開発費 +93百万円
- 減価償却費 +216百万円(うち、ソフトウェア償却費 +113百万円)

➤ 営業外損益

(単位: 百万円)

2026/3期 1Q	2027/3期 1Q	差 異
-80	74	154

- 2027/3期 1Q: 為替差損 24百万円(2026/3期 1Q 為替差損 157百万円)

2027年3月期 連結業績見通し

参考:2027年3月期 連結業績見通しの前提

連結業績

- 事業計画レート(US\$):150円
- 成長投資加速、積極的な人的投資による販管費の増加(2026/3期:13,190百万円 → 2027/3期:15,800百万円)
 - ✓ Semiconductor事業への投資に伴うコスト増:1,000百万円(サプライチェーンの多様化、テストの事業化)
 - ✓ イノベーションセンター稼働に伴う償却費等の増加:700百万円(一時的な費用増400百万円)
 - ✓ ITシステム稼働に伴う償却費等の増加:800百万円
 - ✓ Physical AI Device Solutions、AI&ロボティクス研究室等への戦略投資:500百万円
- 中東情勢リスクの影響は精査中であり、現時点では織り込まず

Semiconductor	• サーバー、車載SoCが好調、前期比大幅増収の見通し • AI用サーバー向けは大手GPUメーカーに加えて、ハイパースケーラー向けのASIC関連の案件が増加の見通し • 車載SoCはシェア拡大による好調が続く見通し
Life Science	• 前期の一部量産品の生産終了に伴い低調が続く見通し
Digital Communication	• Network Solutionは新規製品の量産寄与により増収の見通し ✓ AI用途等のハイエンド領域における次世代製品(1.6T光トランシーバー用レンズ)の量産開始 ✓ レンズコネクタ関連の新規製品は1Q量産開始の見通し
Energy Saving Solution	• 自動車市場は緩やかな成長、プリンター市場は緩やかな減少を想定 • 電装化に対応した低騒音・高効率ギヤソリューションビジネスの拡大により増収の見通し

※2026年4月30日の業績見通しの前提から変更してありません。

2027年3月期 連結業績見通し

(単位: 百万円)

	2027/3期	2027/3期	
	1Q実績	上期計画	通期計画
売上高	12,572	24,300	48,000
売上原価率	51.5%	53.0%	53.7%
営業利益	2,329	3,900	6,400
営業利益率	18.5%	16.0%	13.3%
経常利益	2,404	3,950	6,500
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,782	3,000	5,000
1株当り当期純利益	197.30円	332.16円	553.60円
配当金	-	45.00円	90.00円

※2026年4月30日の業績見通しから変更していません。(事業計画レート(US\$):150.00円)

2027年3月期 セグメント別売上見通し

(単位: 百万円)

	2027/3期	2027/3期	
	1Q実績	上期計画	通期計画
Semiconductor	7,878	15,200	29,000
Life Science	276	500	1,000
Digital Communication	457	1,100	3,000
Energy Saving Solution	3,959	7,500	15,000

※2026年4月30日の業績見通しから変更してありません。

参考:2027年3月期 設備投資・減価償却・研究開発の見通し

	2026/3期	2027/3期	(単位: 百万円)
	通期実績	1Q実績	2027/3期 通期計画
設備投資	7,091	6,420	13,000
長期投資・環境投資	3,796	5,433	7,000
成長分野への投資	1,939	486	4,000
その他の設備投資	1,356	501	2,000
減価償却	2,390	784	3,000
研究開発	1,698	466	2,000

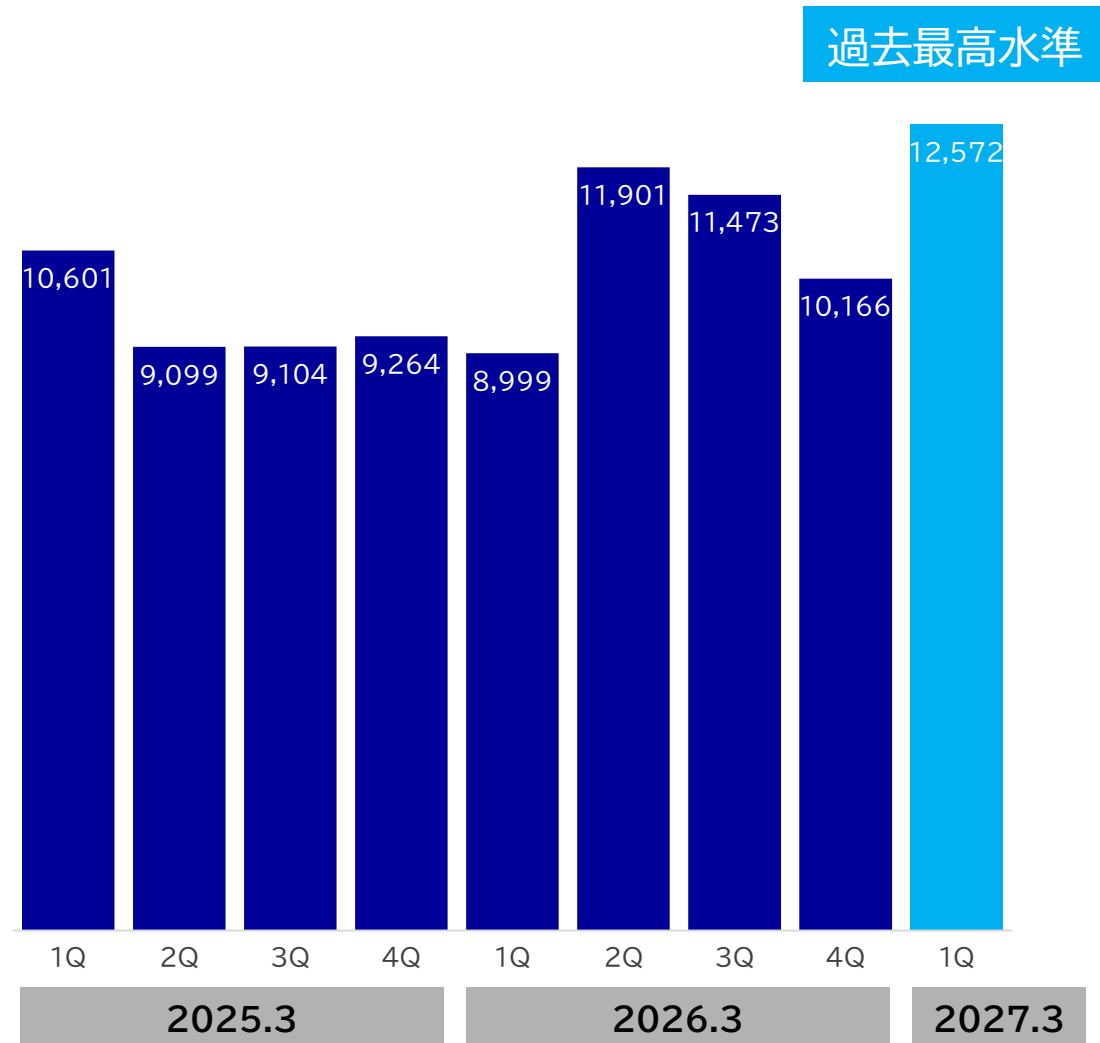
※2026年4月30日時点の見通しから変更していません。

参考資料

参考：連結四半期損益実績推移

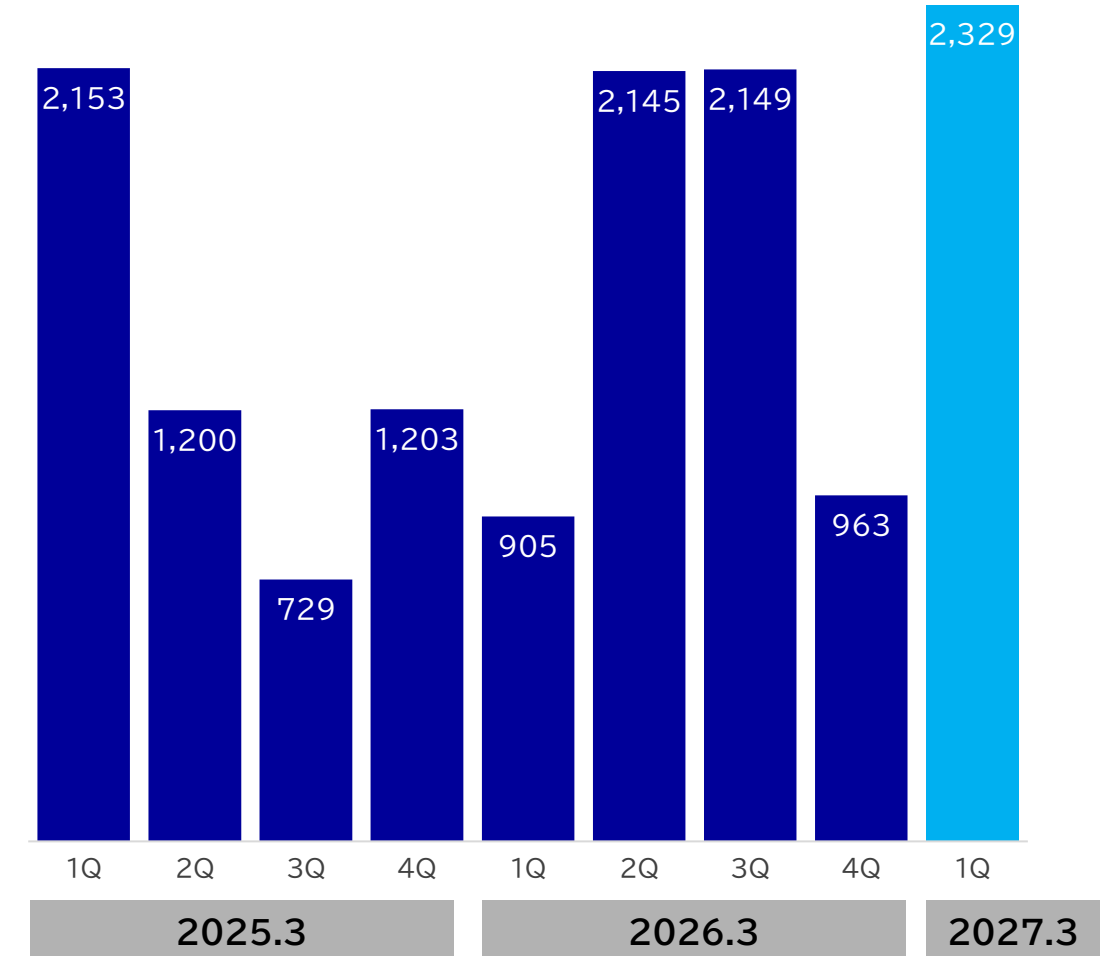
<売上高の推移>

(単位：百万円)



<営業損益の推移>

(単位：百万円)

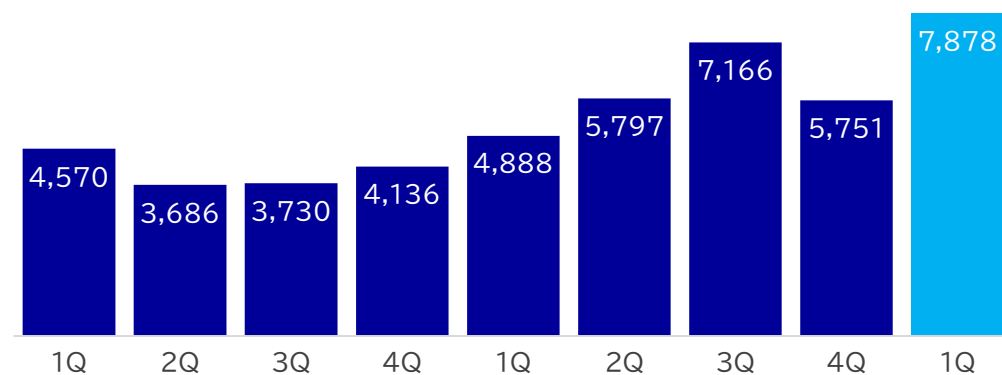


参考:セグメント別四半期損益実績推移(連結)

Semiconductor

<売上高>

(単位: 百万円)



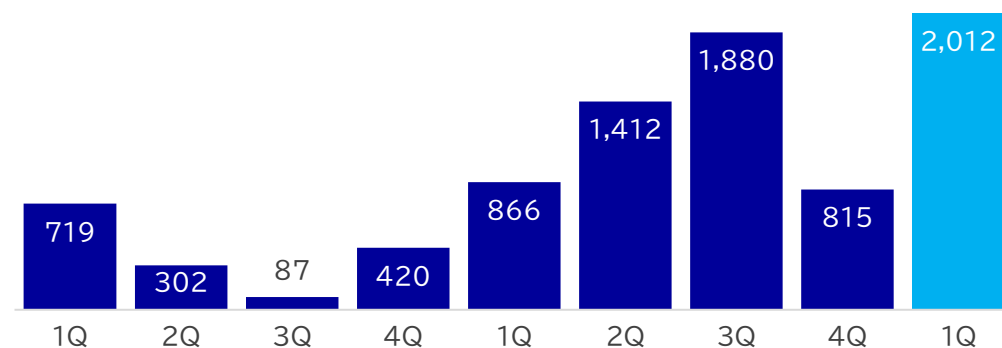
2025.3

2026.3

2027.3

<営業損益>

(単位: 百万円)



2025.3

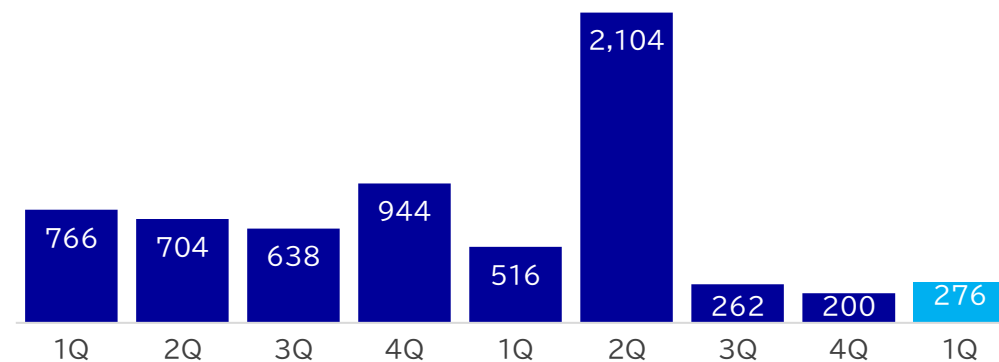
2026.3

2027.3

Life Science

<売上高>

(単位: 百万円)



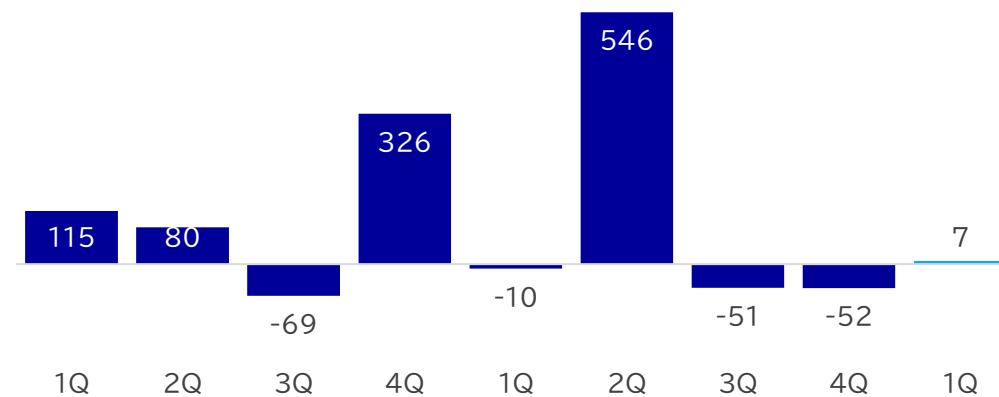
2025.3

2026.3

2027.3

<営業損益>

(単位: 百万円)



2025.3

2026.3

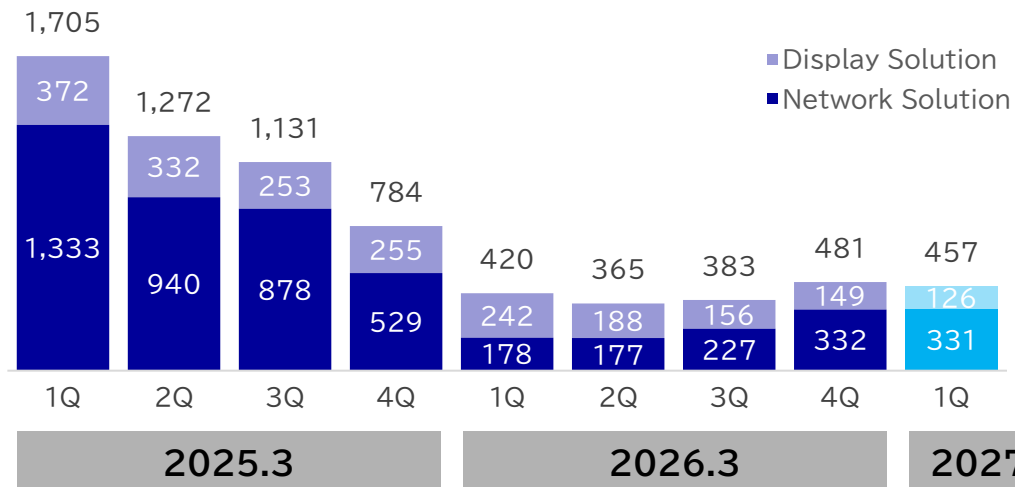
2027.3

参考:セグメント別四半期損益実績推移(連結)

Digital Communication

<売上高>

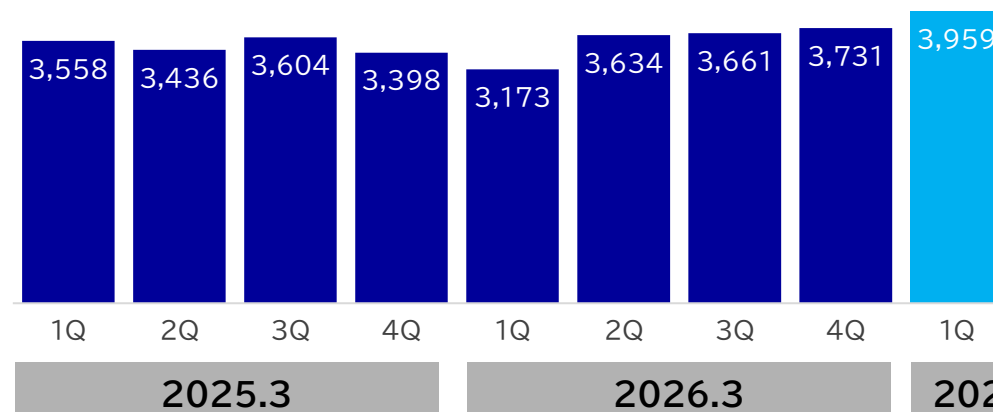
(単位: 百万円)



Energy Saving Solution

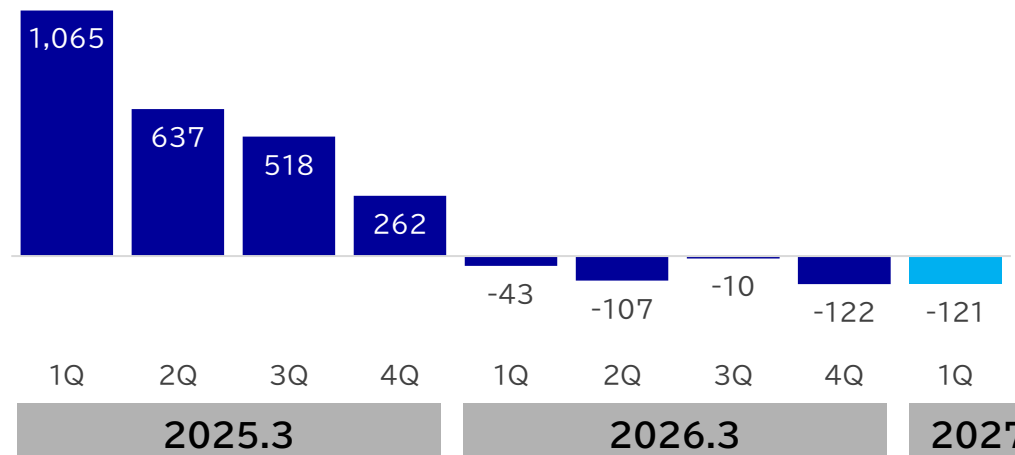
<売上高>

(単位: 百万円)



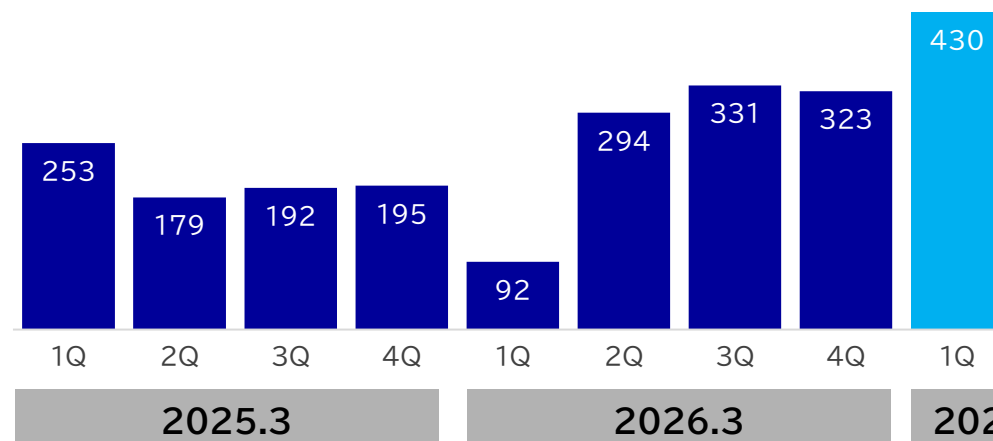
<営業損益>

(単位: 百万円)



<営業損益>

(単位: 百万円)



事業戦略

参考: Semiconductor事業の事業戦略

長期ビジョン

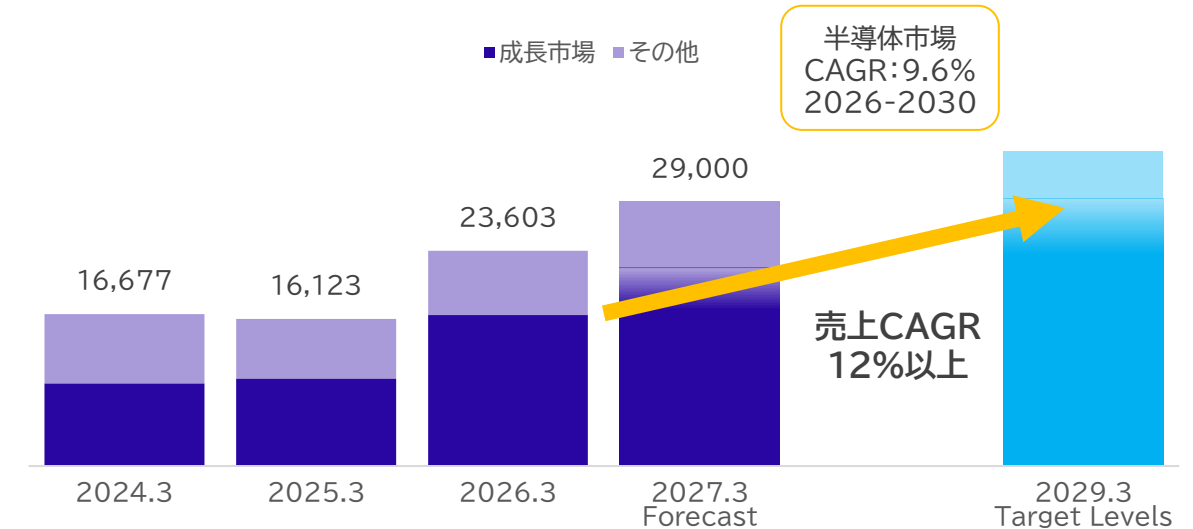
Key Test Solution Company for Semiconductor Market

事業の重点推進事項

成長市場の取り込み (バーンイン)	- 成長市場(AIサーバー・汎用サーバー・車載SoC・モバイル)での事業拡大 - ハイパースケーラー向けASIC関連の量産受注拡大
新領域への参入 (テスト)	成長するシステムレベルテスト(SLT)領域への参入
サプライチェーン強化	事業環境の変化に柔軟に対応するサプライチェーン構築

2029/3期 売上(目指す水準)

(単位: 百万円)



出典: Statista

<https://www.statista.com/outlook/tmo/semiconductors/worldwide#revenue>

非財務目標水準

- バーンインは成長市場の売上比率75% → 85%(2029/3期)
- テストはSLT市場シェア25%獲得(2031/3期)

参考:Life Science事業

長期ビジョン

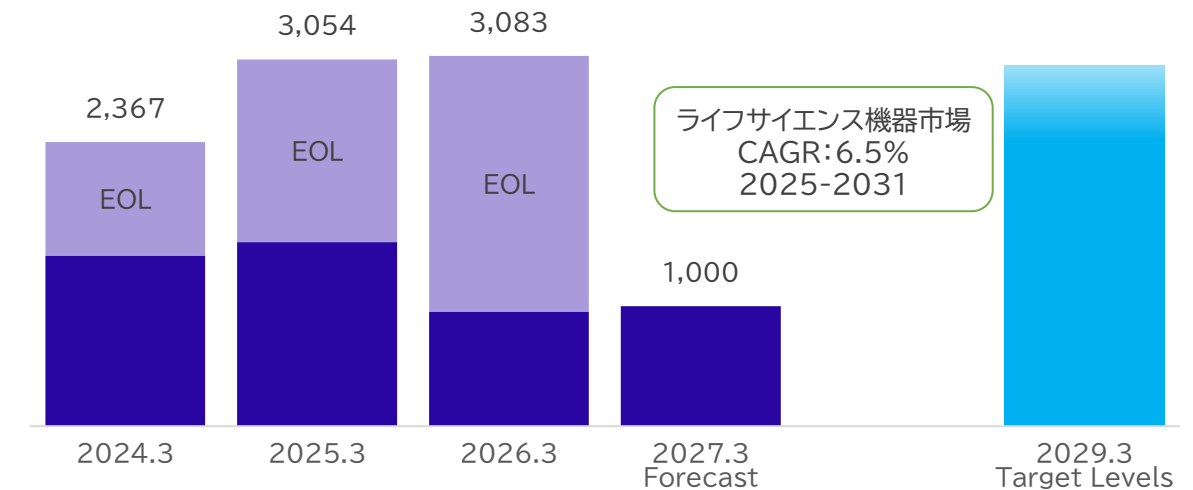
事業領域を広げ、ソリューションビジネスへの変革を進める

事業の重点推進事項

事業領域の拡大	良質な顧客ネットワークを活用し、マイクロ流路チップ領域での新用途開発を推進
新領域の探索	新領域(医療・診断・創薬・農業等)での研究開発を進め、事業化を推進

2029/3期 売上(目指す水準)

(単位: 百万円)



出典: 株式会社SEMABIZ

<https://semabiz.co.jp/mnmast4499/>

非財務目標水準

- 米国および日本での試作ビジネスの拡大

参考: Digital Communication事業

長期ビジョン

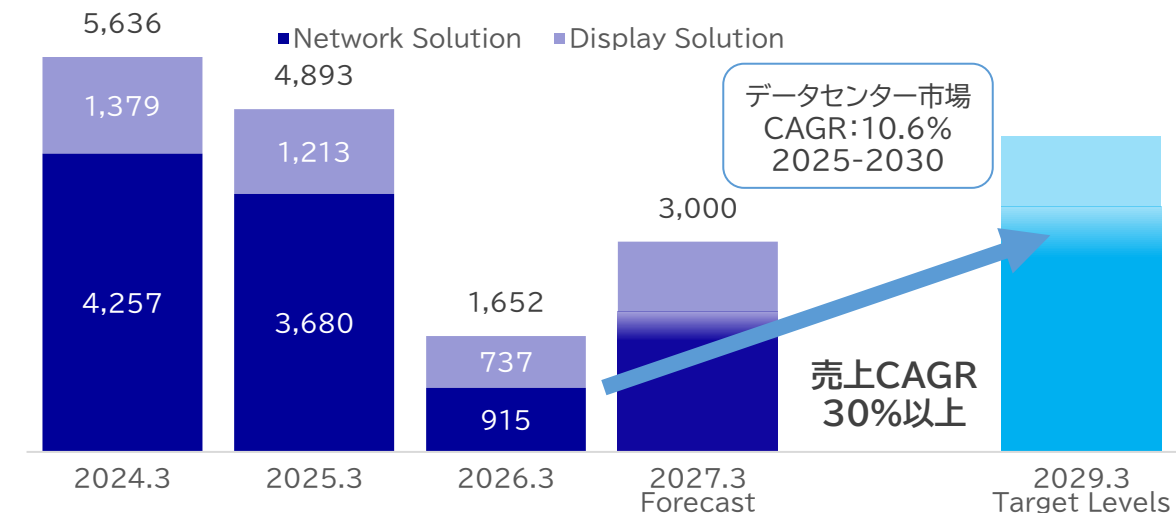
加速するAI市場に新たな価値(新機能、新製品)を提供し、事業機会の最大化を目指す

事業の重点推進事項

Network Solution (光通信関連)	- 光トランシーバー用レンズのみならず、データセンター内の光学関連に事業領域を拡大 - 将来の光電融合に向けた事業機会獲得(3.2Tや6.4T向けCPO関連部品の開発進捗、サンプル出荷)
Display Solution (LED用拡散レンズ)	光束制御技術(混色と広角性能の両立・組立性の向上・薄型の実現)を軸にDisplay市場のシェア拡大

2029/3期 売上(目指す水準)

(単位: 百万円)



出典: BCC Research

<https://www.bccresearch.com/market-research/information-technology/data-centre-market.html>

非財務目標水準

- Network Solution: 事業領域拡大
- Display Solution: ハイエンド、ミドルエンド、ボリュームゾーンでのシェア獲得

参考:Energy Saving Solution事業

長期ビジョン

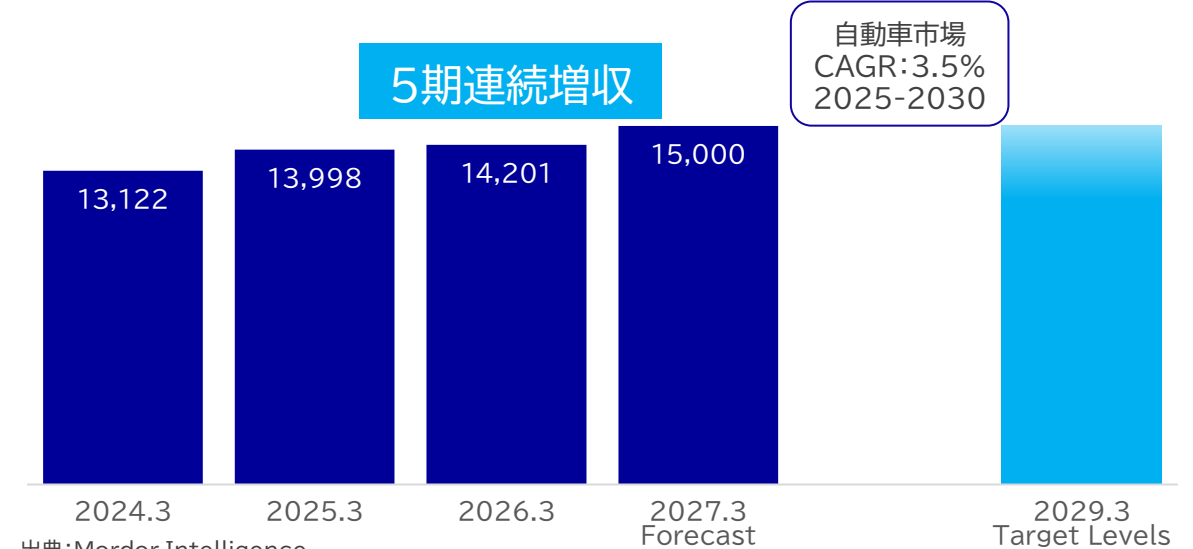
Eco市場において価値を創造し、より良い明日を創ることに貢献する

事業の重点推進事項

ギヤソリューション ビジネス	- 世界No1のギヤソリューションプロバイダーを目指しビジネスモデルを変革 - 自動車の電装化に対応した低騒音・高効率ギヤソリューションビジネスを推進
Electric / Electronics領域	Electric / Electronics領域における新商材の開発推進
既存製品の収益力 強化	新しい生産技術を用いた既存製品の高付加価値化

2029/3期 売上(目指す水準)

(単位: 百万円)



出典:Mordor Intelligence

<https://www.mordorintelligence.com/industry-reports/global-automotive-market>

非財務目標水準

- ギヤソリューションビジネスの売上比率70%(2031/3期)
- Electric / Electronics領域の売上比率10%(2031/3期)

参考:中期経営計画 -2nd roll-

中期経営計画につきましては、2026/4/30に公表しております。

<https://www.enplas.co.jp/ir/mt/>

中期経営方針(2027/3期-2029/3期)

ソリューションプロバイダーとして顧客価値を創出する

スローガン

One Enplas for Growth

株式会社エンプラス 決算説明会

<https://www.enplas.co.jp/>

(東証プライム 6961)

本資料で記述されている業績見通し並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、さまざまな要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。